關大
発行所
関西大学校友会
吹田市山手町3丁目3番35
発行人　神屋敷民蔵
電話大阪（388）1121代表
振替口座大阪55594番

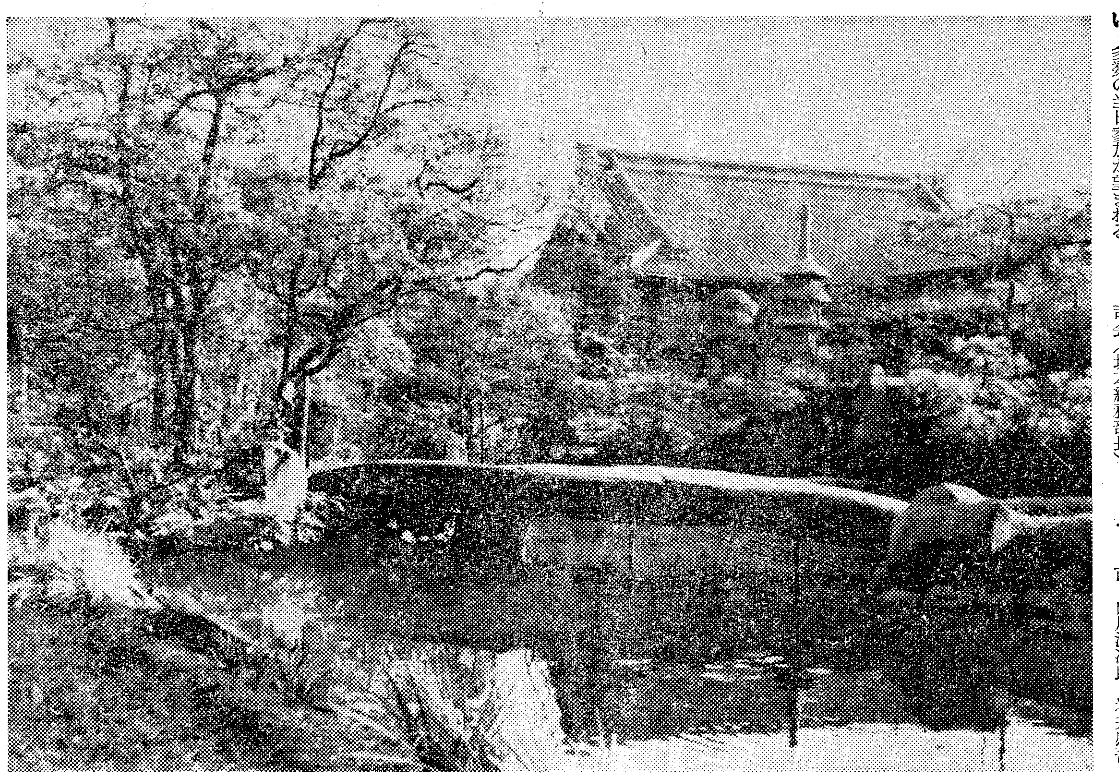
コンタクトレンズ
登録　商標
メガネ
大学堂
本店　心斎橋筋
TEL（271）7891
支店・阪神百貨店5階
・オー生命ビル専門大店

18日 盛大に校友総会

開催待つ太閤園

盛り沢山なプログラム

十一月九日（木）本会執行部総務部会は、いよいよ十八日（土）に迫った昭和四十二年度校友総会の打ち合わせを行ない最終準備段階に入った。＝写真は総会開催を待つ太閤園（都島区東野田町2の1）



同会で報告された校友総会出席状況調査（9日調べ）によると、案内状発送数一七三四一通のうち回答数は四〇三七。そのうち出席数は六九五名で、まだまだ少ない。多数の当日参加が望まれる。

なお総会次第も次のような最終案が決まった。

総会次第　時間

一、開場（受付開始）……15・0
二、開会……16・0
司会（坂本総務部長）
三、学歌演奏……
四、校友会長あいさつ……16・10
五、功労者の表彰……
（春の叙勲者）
大月伸、岡野留次郎、山本勝市、山川源次郎、岩井感吾、佐藤正隆、富田仲次郎、三枝樹正道、柳延胤
（秋の叙勲者）
正井敬次、満田清四郎、中塚正信、上田啓次、芦伝一、関豊馬、右田忠吉、白井誠、中巻弘、服部嘉香、江馬務
（体育功労者）
丸木英二（世界柔道選手権中量級優勝）、松田博文（同軽量級優勝）
六、大学の近況について……16・25
七、会務報告
理事長　久井忠雄
学長　中谷敬寿
八、乾杯……16・50
九、アトラクション……17・0
司会（堺すすむ）
演芸「おしゃべりギター」　堺すすむ
「音楽ショー」　横山ホットブラザーズ
歌の花束
泉あつの（コロンビア）
池久美子（コロンビア）
森下美智子（東芝）
南川政雄とレッドジョーカーズ
福引
十、閉会（学歌演奏）……18・0

論壇

第一五〇号をむかえて

昭和三十年五月一日は、本紙の第一号が発刊せられた日である。本日ここに第一五〇号の発行をみるに至り慶祝にたえない。

一五〇という数字は、この間に要した十二年六カ月の歳月と共に、驚くべきものではないかも知れない。むしろ悠久な人間社会の歴史を想えば、まことに一瞬であるとも言い得るであろう。

しかし、人間の生命にあっては、いかに平均寿命の延びがあっても、先ず一〇〇才が到達の可能性線であって、一五〇才はおろか、故大隈重信の唱えた「人間一二五才説」さえ実現は望まれないであろう。

よくいわれる「十年一昔」のことばは現代社会が近代にくらべてより複雑となり、生活環境の変化のテンポがより速くなった今日においては、いよいよその真義に感得させられるのである。

このような思考において、新聞「関大」がむかえた一五〇号に祝福をおくるものであるが、特にうまれ出た当時のなやみを知り、そだてられつつある月々の苦心を思えばなおさらである。今日までの歩みはけっして短く安易平穏なものではなく、まことに長い栄光と苦難の道であったといわねばならない。以下若干の回顧と自戒を記し、進むべき今後の道程をたたえたいと思う。

創刊当時を想起すれば「校友会の機関紙」と名づけながら専任の事務員はなし編集室はなし、その上肝心の予算また無に等しく、いわば「無いものずくし」といってよいスタートであった。

それは、赤貧洗うが如きところへ産み落とされた子供のようで、しかもその使命は重く期待は大きいだけに、果たしてその負担に堪えて生きぬくことが出来るかどうか？　全校友の心配はひとしくここにあった。

今にして思えば、これらはすべて杞憂におわった。即ち、その後校友会の確固たる制度化がなり、せいせい発展する大学の雄姿と共に、十万校友の熱烈な支援にささえられて肥立ちもよく頑丈に成長したからである。

現在にいたる発育の段階を、かりに人間の一生でいえば、五〇号紙までを義務教育期とし、一〇〇号紙までを高等教育期とし、そしてこの一五〇号紙をもって大学教育の卒業になぞらえて然るべきかと思う。本当の活躍はこれからである。

この期に至るまでには、まことに高価な犠牲が払われ、人的関係においても、当時の校友会長であった岩崎学長と白川理事長の死去、そして副会長であった三好氏と初代編集委員（五名）の一人であった長柄氏の長逝など、惜しみてもあまりある校友会功労の名士を失っている。只々無念の至りである。

ここにおいて、次号以下の本紙の使命は重大でなければならない。

校友会の連絡機関である段階から、大学の内容充実の質的向上と、施設の拡充の量的伸展に直接間接に寄与しながら、いわゆる新聞本来の使命と操觚者の誇るべき責任において、全社会のものであることの領域に進出しなければならない。

これを少しく具体的に敷延すれば、関西大学第二校友会館（仮称）の建設が考慮されるべきであろう。その詳細については記述する余白をもたないが「学の実化」に即した各種研修会・講演会の開催を常時企画し、大学の有する施設と研究機関の適切な利用と相まって、社会の発展と向上に資する殿堂とすべきである。

即ち大学と教授と校友の機能を効率的に運用して、その接点の最大公約数を求め飽くまでも自由にして民主的な学風をおしみなく放出すべきである。そこには、かつて優秀な科学者や哲学者の会合に取り上げられた課題「技術的進歩と道徳的進歩」など、今こそ改めて討究さるべき絶好の問題もあり「人類の進歩と調和」をテーマとする万博に協力することなど頭を生かして考えれば校友会も大学も、この際大いに門戸を開放し、視野を広げて相互協力のもと、大いになすあるを企画しなければならない。

一五〇号紙をむかえた感慨とともに、校友諸氏の一層の御支援を受けて、今後さらに充実を期したいものである。

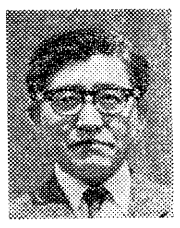
教学部長に杉原教授

学生部長など新任さる

杉原教学部長

小川就職部長

桜田学生部長



広瀬図書館長

大学では、十月一日付で発令された学長人事にともなって、学長と任期を同じくする教学部長、学生部長、就職部長、図書館長の異動が十月三十一日付と十一月一日付で発令があった。

まず十月三十一日付では、前任の植野郁太教学部長、中義勝学生部長、鋳方貞亮就職部長、堀正人図書館長をそれぞれ解任。十一月一日付で、教学部長に杉原四郎教授（経）、学生部長に桜田誉教授（法）、就職部長に小川雅弥教授（工）、図書館長に広瀬捨三教授（文）がそれぞれ新任した。

教学部長　杉原四郎　昭和17年京大卒　同23年本学経済学部助教授　同25年経済学部教授　同30年経済学部長代理　同34年教養部長　同35年経済学部長代理　同39年―41年経済学部長

学生部長　桜田誉　昭和18年本学法文学部卒　同23年法学部助教授　同28年法学部教授　同26年法学部次長　同28年法学部長代理　同31年法学部長代理　同36年法学部長　同39年学生部長

就職部長　小川雅弥　（誠之館・前館長）昭和18年大阪市大卒　同33年本学工学部教授　同35年工学部就職主事

図書館長　広瀬捨三　昭和11年本学法文学部文学科卒　同15年本学助教授　同17年同教授　同22年学部学生部次長　同27年文学部長代理　同35年文学部長代理　同38年―40年教養部長

評議員会議長に

吉田鹿之助氏

11月1日付で、評議員会は議長に吉田鹿之助氏（大9大法）を決めた。副議長は村上精三氏が留任。

なお前議長の樫本氏は本会会長の任に専念することになった。

満田氏に勲二等瑞宝章

本学関係　栄えの秋の叙勲者

◇勲二等瑞宝章
満田清四郎（大9専法・弁護士・70才）元徳島・山口地裁所長、退官後は調停委員、市選管委員長として活躍。山口市新道二九〇一ノ三

◇勲三等旭日中綬章
正井敬次（元本学学長・名誉教授・80才）豊中市上野五ノ九

◇勲三等瑞宝章
中塚正信（大2専法・弁護士・74才）西宮市雲井町三一
白井誠（大4専法・弁護士・73才）伊丹市大鹿門之前三ノ二九

◇勲四等旭日小綬章
服部嘉香（元本学教授・81才）東京都世田谷区赤堤五ノ一〇

◇勲四等瑞宝章
上田啓次（推薦校友・元公証人・71才）大津市四宮町四〇
江馬務（元本学講師・82才）京都府乙訓郡向日町鶏冠井荒内八九

◇勲五等双光旭日章
芦伝一（大4専二商・日本エメリー工業所社長・77才）枚方市六万寺町五九九
右田忠吉（大3専法・大阪地裁調停委員・79才）大阪市東住吉区田辺東之町五
関豊馬（明44専法・弁護士・大学顧問・80才）大阪市阿倍野区帝塚山西一

◇勲五等瑞宝章
中巻弘（大5関甲・兵庫日産自動車社長・70才）神戸市東灘区御影町滝昇一三三五

蜂の巣城調査団

資料室を開設

研究成果に期待集まる

〝蜂の巣城〟総合学術調査団の報告研究会

関西大学下筌・松原ダム（通称「蜂の巣城」ダム）総合学術調査団は、今夏に第一次学術調査を終え（八月十五日号既報）十月二十三日（月）一次調査合同報告研究会を法文研究室新館5階第二合同研究室で開いた。

今回の調査の特徴は、地元の反響が大きかったこと。特に争議の当時者相方が呉越同舟で出迎え、調査団の滞在中は一時休戦し、調査研究に両者が協力的だったことが挙げられる。帰阪後の現在でも現地から多数の資料が送られて来ており、関係方面から早くも研究成果が期待されている。

なお、同研究会は、続々と送られてくる資料の整理を急ぐと同時に法文研究室52号室を資料室として開設し公開する一方、二次調査の報告書作成、第二次調査団派遣に関する計画書作成、任務分担などを検討して概要を準備した。

十六名が合格

本学関係

昭和42年度司法試験で

昭和四十二年度司法試験合格者が判明し、本学関係では十六名の合格者があった。

総数五三七名の合格者が発表され、主な内わけは、①中央大一三九名②東大一一八名③早大五〇④京大三九⑤明治大二三⑥日本大二一⑦関大一六⑧慶応大一五⑨一橋大一一⑩大阪大一〇となっている。

◇合格者名簿◇

生田暉雄（昭39学一法）、稲田堅太郎（昭36学二法）、浦上文男（昭31学二法）、岡田尚明（昭34学一法）、瀬戸俊太郎（昭39学一法）、鶴田啓三（昭34学一法）、西尾精太（昭40学一法）、藤本文夫（昭34学一法）、長野益三（昭42学二法）、花村哲男（昭33学二法中退）、藤川真之（昭和39学二法）、村田善明（昭38学二法）、森弘（昭31学一法）、山田庸男（昭42学一法）、力野博之（昭34学一法）、渡辺雅文（昭41学一法）

十月末で七割突破

就職戦線好調つづく

就職課の調べによると、昭和四十二年度卒業見込者の十月末日までに判明した就職決定者状況は、次のとおりである。

就職希望者一六六八名（一部）一一五名（二部）のうち就職決定者は、一一〇二名（一部）五五名（二部）で、一部が71％、二部が48％の就職率となっている。

学部別には、一部では、法73％、経済77％、文50％、商80％、工71％、同様に二部の方も法36％、経済58％、文36％、商59％となっている。なお、一部の工学部機械、機械第二学科、および二部の文学部、独文、史学科では早くも完全就職が出ている。一方、女子学生は就職希望者六七名（一部）に対して就職決定者は七名で、10％の就職率である。

就職先を企業内容別にみると、巨大企業（資本金10億円以上）に三四一名（一部）五名（二部）、大企業（資本金一億円以上）には七五一名（一部）一六名（二部）中企業（資本金1千万円以上）に六五六名（一部）三〇名（二部）小企業（資本金1千万円未満）に七一名（一部）一名（二部）となっており、その他企業以外官公庁には、八三名（一部）三名（二部）という結果が出ている。

産業分類別では、銀行・信託・金庫・組合などの金融関係が多く一七三名、次いで化学・薬品工業に一三四名、機械製造業に一二〇名、繊維販売業に一一六名、金属製品製造業に一一五名、建設業に九六名、繊維製品製造業に九五名というのが主なところである。

文・教育学会が発足式

十二月二日　記念行事を催す

十二月二日（土）午後二時より本学千里山の第一学舎D教室で、このほど新設されることになった文学部教育学会の発足記念と本年四月より開設されている教育学科の発足を記念して、公開講演会、シンポジウム、映画（「人間開発録」……三重苦の子どもの教育の記録」）、第二部に関大会館での会員親睦会が催されることになった。

文学部教育学科は、日本の教育学界・心理学界において重要な役割を果たしているすぐれた学者、将来を嘱目される若い研究者十二名でそのスタッフを構成しているが、学生も一部六八名、二部二〇名を集め出発した。

従来、文学部は各学科にそれぞれ学会を持っているが、教育学科も今度〝関西大学教育学会〟を設置することに決定し、会則も定められている。そのため、教育学会では、社会において教育学・心理学に関係の深い事業に従事している人々の参加に広く門戸を開いている。

教員スタッフ次の通り。

教授　梅津八三
　　　川口勇
　　　鈴木祥蔵
専任講師　右島洋介
　　　　　宮沢康人
助手　藤井稔
　　　田中欣和
副手　沢登正枝
着任予定者
教授　勝田守一
助教授　村尾能成
　　　　宮谷憲
専任講師　中島巌

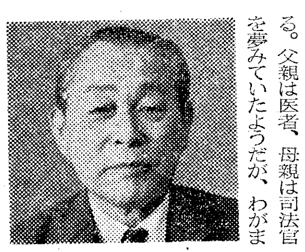
記念行事参加希望者及び学会入会希望者は、現在教育学科で受付中。

教授登壇　33

古稀を迎えられた末永雅雄教授

□…図書館の三階にある考古学教室を訪ねると、人なつっこい末永教授の顔が見えた。登壇してもらいたい旨を伝えると、「もう、僕なんかいいじゃないか、いろんなところで紹介されているんだから」と末永教授らしい答え方である。それでも気軽に応じられた。

明治三十年六月、南河内の狭山で生まれ、子供の時分から、古代の土器を焼いたかま跡や古墳に遊んだと、昔を思い出されながら話される。狭山池の堤にはそんな古土器のカケラが多く、継ぎ合わせると原形を復活することができるものもあったという。お父さんが、茶や生華、俳句、和歌に親しまれていたのと、一人息子であったため、ずいぶん大事に育てられたらしい。そのころの教授の夢は「軍人」志望だったそうである。父親は医者、母親は司法官を夢みていたようだが、わがままだった教授は軍人にならせてくれないのならということから反抗が始まって、そのまま考古学の研究に入ったというから人の一生というものは解らぬものである。畠山尾張守義洞というのが教授の先祖にあたるそうで、武人の血を受けていることは間違いない。



□…両親に反抗した教授は、通常の学校制度を小学校で放り出して水戸学の流れをくむ高瀬先生に師事、相当激しい反抗である。いや、その徹底した反抗の明が、今日の教授であるかもしれない。それは、およそ二十年間続き、師事した先生も、考古学の関先生、京大文学部の浜田西田先生と研究室に通いつめる。「両親のいうとおりに、司法官か医者を目指して大学に行っていた方がよかったかもしれない。大学に入ってからでも、考古学はできるんだから」と二十年間の苦しさをちょっぴりのぞかせる。だが、自分から苦しいとは言われない。それよりも「今の研究にとっては、その二十年間は充実した意義があった」とあくまでも武人である。

□…日本考古学会の第一人者である教授が、関大で果たしている役割は大きい。考古学、博物館学の創設をはじめ、関西では単独で調査できる研究室、スタッフの充実、資料の充実など現関大考古学の全てであるといってもいいすぎではない。「今は早く関大に博物館の実現をみたい」といわれる教授だが、来年三月で定年退官と聞く。「巨大な武人」を失うのは惜しい。

会と催

◇関大法曹会　11月15日（水）午後5時　大阪国際ホテル
◇昭和42年度校友総会　11月18日（土）午後3時　太閤園
◇十四会　11月19日（日）12時半　箕面「清の家」
◇前夜祭（千里祭）　11月20日（月）午後6時　毎日ホール
◇千里祭　11月23日（木）～11月26日（日）　千里山学舎
◇南支部総会　11月29日（水）午後5時半
◇国鉄関大会　12月2日（土）午後2時　中国飯店

第五学舎が落成

十月十二日午前十時三十分から本学第五学舎増築棟五階製図室で、第五学舎の落成式が行われた。

葦の雫

「まず、健康」これは、昭和のはじめに、毎日新聞が、健康についての標語を募集したとき、第一位で当選した標語である。なにしろ、人生は、健康第一で、健康であることにより、日常生活が楽しく愉快であり、人生に自信がもてる▼人は、往々にして、富を積み、名誉を重ね、なに不自由ない人でも、健康に恵まれない人の生活は、不幸で暗い。ことに病床に呻吟する身ともなれば、健康の幸わせを思い、健康な人びとへの羨望の気持は、堪えがたいものがあろう▼徳川時代に生きた越後（新潟県）の良寛和尚は、その弟由之（よしゆき）にあてた手紙に「大酒は、実に命を切る斧なり ゆめゆめ、すごさぬようあそばさるべく候」と書き、さらに、七尺（二㍍）の屏風も、飛べば飛べる。立派な衣裳のたもとも、引けばちぎれる。飲みたくとも、無理をせず、制酒が肝要であると説いている▼命を切る斧という表現は、温雅な良寛和尚としては、きびしい表現である。昔は、医薬が幼稚で、もし、大病ともなれば、たいへんなことで、いっそう、節酒自戒を痛感したものだろう。当時は、人生五十年。短い命であればこそ、なお強く長寿を望み、不老不死という無理な言葉で、健康、長寿を願ったものだ▼先日、吉田元総理が亡くなった。そのとき、テレビに出演した今東光和尚が「吉田さんが、八十九才まで長生きしたということは、ただ、それだけで、偉大な事業ですよ」といっていた。なるほど、医薬が進んだ現在でも、九十才に手がとどくまでの長寿は、そうザラにない。いわば、マラソンに優勝するほどの偉大な業績であったともいえる。しかも、長生きは、その人、個人だけでなく、周囲の人や、あとにつづく人たちに長寿の希望を与え、健康と長寿のための、いろいろな参考と教訓を提供することになる▼とにかく、人生は、健康、長寿を保ち、健康ゆえに、愉快に、よい仕事ができ、長寿することにより、大きな業績を積みかさねることができる。せっかく、万物の長として生をうけ、その生を、より楽しく、より意義あるものとするため「まず、健康」これを座右の銘とし、人それぞれの健康法で、不老長寿を楽しみたいものである。

霞立つ長き春日を子供らと手毬つきつつ此の日暮らしつ　良寛

ダイヘン
変圧器／溶接機
大阪変圧器
大阪／東京／名古屋／福岡／広島／札幌

宝塚ファミリーランド
大好評の宝塚大人形館！
■歌い踊る620体の人形たち
世界はひとつ＜宝塚大人形館＞
お舟に乗って館内に入ると、可愛い人形たちが踊り歌って迎えてくれます。100円・小人50円
このほか、宝塚歌劇をはじめ、新芸座、動物園、植物園、おとぎセンターなど娯楽施設が完備
■入園料…130円・こども70円

英国サビルロウコールマン社・英国T・B＆サンス社日本総代理店
最高のおくりもの
カタノ紳士服地
片野洋服店
大阪市東区北浜三丁目（電停前）
電話大阪（202）〇六六〇〇五七
大阪駅前第一生命ビル専門大店
電話大阪（341）〇七九二
カタノ良イ　カタノ凝ラヌ　カタノ崩レヌ　カタノ洋服店

関西大学

昭和43年度　学生募集要項

大学院　修士課程・博士課程

学部（第1部）	試験期日	募集人員
法学部	2月3日（土）	約　500人
経済学部	2月4日（日）	約　500人
文学部	2月5日（月）	約　400人
商学部	2月6日（火）	約　500人
社会学部	2月7日（水）	約　400人
工学部	2月8日（木）	約1,000人

各学部地方試験　2月4日（日）

（第2部）		
法学部	3月3日（日）	約　300人
経済学部		約　300人
文学部		約　150人
商学部		約　150人
社会学部		約　100人

試験地
本学および地方（金沢・名古屋・高松・広島・福岡）
募集要項の申込は（要項100円現金又は為替〒55円）
関西大学　大学事務局　学務課

昭和43年度　生徒募集要項

関西大学第一高等学校

募集人員	400名（男）
出願受付期間	2月1日（木）から2月13日（火）まで
受験料	3,000円
試験期日	2月15日（木）
合格者発表	2月19日（月）正午
入学手続期間	2月19日（月）から2月23日（金）まで

関西大学第一中学校

募集人員	135名（男）
出願受付期間	2月20日（火）から2月29日（木）まで
受験料	3,000円
試験期日	3月1日（金）
合格者発表	3月5日（火）午前10時
入学手続期間	3月5日（火）から3月9日（土）まで

＊日本全国をもれなくネットし
躍進する太平グループ
北は北海道より南は鹿児島まで日本全国に支店・営業所200余ヵ所
家づくりからレジャー事業まで安心してお任せ願える
太平グループに、ぜひご相談ください。
太平グループ提供テレビ番組
〔ミノルフォンスターパレード〕
毎週日曜・午後4時30分より
毎日放送テレビ（4チャンネル）
●各社営業案内書御一報次第贈呈
大阪支店・大阪市西区阿波堀通り（信濃橋交差点）
電話（531）7531代表
太平ビル18階（太平グループ各本社収容）
大阪支店
太平グループ　太平住宅　太平火災　太平ビルサービス　太平観光　ミノルフォン
理研映画　太平木材　太平印刷　太平出版　タイヘイフィルム　太平会館
本社・東京新宿駅南口甲州街道沿・太平ビル　電話（343）1111大代表～1169

北から・南から 各地支部だより

会長に岡野衛士氏
中谷学長就任祝賀会

関大経済人クラブ

関大経済人クラブは校友の経済人同好の士によって昭和三十八年に結成され、毎年数回の例会を開いて学識者の講演会を開いて啓発と親睦を図っているが、十月二十日大阪都ホテルで第13回例会を開催した。

会長三好萬次氏が去る七月三十日に逝去されたので、会長に大阪証券会館社長岡野衛士氏（大11専法・元大阪証券取引所理事長、校友会長）を満場一致で決定した。

現在会員は百余名であるが、関西財界にはなお多数の代表的な実業人が多いので、逐次会員を増やして母校のためにも寄与したいと今回は住江織物取締役上中正義氏ほか十二名の会員を推薦した。

当日は森川学長病気退任により再び学長になられた中谷博士の就任祝賀会としたもので、岡野会長増田南海専務、前川ナショナルインターホン社長その他から祝辞と労を犒う校友の声援に、中谷学長は深甚の謝意を表され、所信を披れきして期待に応えたい旨述べられた。

当日の出席者＝主賓中谷学長、赤井常隆、伊東太平、池田要二郎、今井康兼、大島節衛、岡野衛士、樫本信雄、川野栄三、河合中、木下忠夫、小寺小市郎、後藤正身、田島喜代次、多田米蔵、辻中義雄、戸根泰雄、中石清一、中尾善賞、中沢俊雄、中島徳男、永田規矩雄、長谷川順雄、前川信之助、前田軍治、増田金一、森柃次、矢野文雄、保井剛一、山村茂、吉田鹿之助

小汀利得氏を招き盛大に開く
昭和42年　東京支部秋季総会

昭和四十二年度、東京支部秋季総会は、去る十月六日（金）午後五時半より東京新宿角筈の太平ビル六階ホールにおいて盛大に開催されました。開会前、理研映画㈱による「大毎ニュース」の上映があり、住岡副支部長の開会の辞、学歌斉唱に引き続き、中山支部長が挨拶されました。

ついで、今回の総会には関大本部より久井理事長ならびに樫本校友会長のご出席があり、お二方からは母校関大の近況報告があり、母校関大がその隆々たる発展と力強さを背景として私立大学連盟における地位を着実に築きつつあることを説明されました。

また、東京支部の総会は例年の如く出席者も多く、盛大であり益々発展をみるその活動に感心されておりました。

その後、板橋顧問の挨拶についで中山支部長の特別の取り計らいにより、マス・コミ界の元老、評論家、小汀利得先生をお招きし「現代世相の縦横観」と題しての講演があり、有意義なお話しに出席校友も興味深く聞き入っておりました。

つぎに宴会に入り新旧校友のなごやかな交歓風景が、会場一ぱいに見られ、和気あいあいの内に新会員の紹介があり、最後に弁護士の植松圭太氏（大七・専法）による母校と支部の発展を祝す万才三唱を以って盛会裡に終了しました。【この稿、東京】

関西経済人クラブ第13回例会

東京支部総会で乾盃の音頭をとる樫本会長

哲学科の校友集う
―関大逍遥会総会―

十一月三日、午後二時から大阪北の梅田ビル地階ニュー・グリルで、関大逍遥会の総会が開かれた。この〝関大逍遥会〟は、本年度から校友会に正式登録を行なっており、文学部哲学科卒業生の組織として、非常に広範な人々を集めている。また、同会では随想集のような形式で独自の機関紙をも発行している。

今回の総会では、三十一名が参加して、教授他の講話にひきつづき、同会委員長上田治雄氏（昭10哲卒）の欧州旅行の見聞談、その後各参加者から自己紹介をかねてスピーチを行ない、午後五時すぎ散会した。

当日の参加者次のとおり。

岡野留次郎、大小島真二、田中熈、藤本是、中村正雄、渡辺幸博、山崎正太郎、岡勝彦、坂田親信、野口省吾、舘谷作尉、蝶野和彦、沢井靖介、吉川直、増成啓人、森川彰、小沢宗、江波文英、柴田光三、長野末雄、豊島孝次、井口正信、上田治雄、奈須楢太郎、安橋貞雄、岡村淑子、乾昌子、三井三郎、和田晴介、広兼熈、東山賢光。（敬称略）

第20回
産業セミナー開く
中小企業当面の諸問題

十月二十日、大阪北の第一生命ビル12階会議室で、関西大学経済・政治研究所主催の、第20回産業セミナーが催された。今回の主題は、中小企業当面の諸問題とされ同研究所所員四氏がそれぞれの専門分野の立場から発表を行なった。

午後一時、経済・政治研究所長の矢口孝次郎教授の挨拶にひきつづき、司会の松原藤由経済学部教授からも挨拶が行なわれたあと中正村躬工学部教授の講演に入った。

同教授は「設備近代化に伴なう諸問題」と題して、生産性向上と機械化の問題点である〝機械化の条件〟について説かれた。「機械化の促進は同時に、生産の標準化・量産化・単純化を要求する」とのべて、生産管理などの、いわゆる管理の諸問題について述べた。

続いて、「中小企業の不当労働行為」と題して、法学部の岸井貞男助教授の講演が始まった。「不利益扱い」の問題をめぐり、「経営者は労働問題を処理するに際しても、他の商ビジネスに対すると同じように扱うべきだ」ということを様々の例題を引用して説明を行なった。

当日聴講者は約一五〇名程が集まり、聴講者はその九割以上が中小企業の経営者で、その一人一人が熱心にノートしている風景がみられた。続いて広田君美社会学部教授の「中小企業における人づくり」で、講演は再開された。

「物のない戦後の頃、人はあまっていた。しかし、今や物は豊かになった。だが、人が足りなくなった」と論を開き、若年労働者の離職問題とその対策を、同教授の専門分野である産業心理学をふんだんに駆使して「人間は機械ではない。機械はスイッチを入れれば動く。しかし、人間は金を与えられたから動くというようなわけにはゆかない」「よく、中小企業を止めるときにいわれる言葉に、賃金が安いというのがあるが、これは本当に賃金が安いのではなく、その他の諸条件に対する欲求不満が金に換算されているだけのこと」と語り「きめの細かい心理管理ができるのは、むしろ中小企業」であると、「心理管理」と「定着率」の関係を強調して終った。

最後に、「中小企業の財務」について、商学部の清水宗一教授の講演が行なわれた。

資本調達の特殊性について、長期資本のみならず短期資本の調達もまた困難であることを指摘して、その原因を中小企業の経営基盤の弱さであると述べた清水教授は、〝融資受入体制の改善〟について、先ず、会計組織およびその方法の近代化を説いた。さらに、個人的な感覚による経営を、計画的な経営実行体制に移行させ、特に資金計画を確立することの必要を述べて、中小企業における積み立て利益、内部留保を強調。社員による持株式の各企業における特殊性を研究した上での実施が必要なことを語って終えた。

最後に、聴講者からの質問を中心に、熱心な討議が行なわれ、午後五時過ぎ、意義深いセミナーを閉会した。

第20回産業セミナーの会場

42年度日本考古学協会大会で末永教授の講演「古墳の始まりと終り」

古墳と共に70年
末永教授の古稀を祝う

末永雅雄教授（文学部史学科）の古稀祝賀会が、十月二十九日（日）午後六時から、新阪急ホテルで開かれた。

当日は末永先生の日ごろの人柄を表わして、総数二九五名が出席し、盛況だった。先生が日本考古学会の重鎮でもあるため、学会関係者多数が各地から集まり、末永先生の古稀を祝賀した。

祝賀会は二部に分かれ、第一部は献呈式で司会は文学部の横田教授が担当。次の順序に進んだ。

一、発起人代表あいさつ
三品彰英（大阪市立博物館長・文学博士）
一、会務報告
有坂隆道（文学部教授）
一、「古代学論叢」執筆代献呈
澄田正一（名大教授）
一、記念品贈呈
斉藤忠（東大教授・文博）
一、祝辞
中谷敬寿（本学学長）
八幡一郎（日本考古学協会委員長・上智大教授）

引き続き第二部の祝宴の部に移った。司会は森浩一同大助教授、伊達宗泰大和歴史館主任、小島俊次奈良県教育委員会主事の三名が担当。

一、乾杯
岡野留次郎（元本学学長）
一、開宴
一、祝辞
西村治三郎（法人代表）
池田源太（橿原考古学研究所代表、竜大教授、文博）
宮崎円遵（竜大文学部長・文博）
肥後和男（友人代表、東京教育大名誉教授・文博）
樫本信雄（校友代表）
山口文夫（大阪歴史学会代表）
狭山町長
石田茂作（前奈良博物館長・文博）
塚本善隆（京都国立博物館長・文博）
斉藤孝（卒業生代表・関学助手）
三島律夫（一高名誉校長）
一、祝電披露
一、末永先生の謝辞
一、万歳三唱
山根徳太郎（難波宮跡研究会代表、元市大教授・文博）
一、閉会のあいさつ
壷井義正（本学文学部長）

の順で行なわれた。

考古学協会42年度大会
千里山学舎などで開く

日本考古学協会（委員長　八幡一郎上智大教授）の昭和42年度大会が、十月二十八日（土）から三日間、関西大学千里山学舎法文二二五番教室などで開かれた。

二十八日（土）二十九日（日）の二日間にわたって二十六の研究発表がなされ、活発な質疑応答もみられた。二十九日は午後から「響灘沿岸の弥生文化」（東京教育大　国分直一教授）「古墳の始まりと終り」（関大　末永雅雄教授）の二つの公開講演もあり、五百人の会場いっぱいの聴衆も静かに聞き入っていた。

なお、三十日はバスを利用して唐古遺跡、藤原京跡、大和歴史館新沢千塚、飛鳥京跡などを見学して大会日程を終えた。

末永先生古稀記念

古代学論叢を発刊

末永教授の古稀を記念して「古代学論叢」が発刊された。内容はB5判、七三二頁、箱入上製本で発行は末永先生古稀記念会。目次は次のとおり。

序　中谷敬寿
末永雅雄先生略年譜及主要著作目録
前方後円墳の企劃性と条里制地割　秋山日出雄
日本仏堂建築の系譜　浅野清
大化甲申詔にみえる墳墓の規制について　網干善教
朝鮮半島における鉄製農具の変遷について　有光教一
瓶尊と古代人の情緒　池田源太
仏像のよろい　石田茂作
推古朝の諸問題　井上薫
前方後円墳の兆域の諸問題　上田宏範
縄文土器文化後・晩期の熊と思われる土製品について　江坂輝弥
歴史時代における「塚」の考古学的考察　大場磐雄
「卑弥呼を親魏倭王とする制書」をめぐる諸問題　大庭脩
漢代における池溝開発とその遺跡―安徽省寿県安豊塘遺跡―　岡崎敬
敦煌本「茶酒論」について　小笠原宣秀
古墳考察のための文献資料の一解釈　尾崎喜佐雄
東大寺献物帳について　小野勝年
県犬養橘宿祢三千代をめぐる臆説　岸俊男
土師四腹と古墳　小島俊次
麒麟考　駒井和愛
国分僧寺と国分尼寺との距離及び方位に関する一考察　斎藤忠
大和の古駅　坂本太郎
古代の罪と祓についての再考　柴田実
古墳に遺存する朱について　嶋田暁
福島県真野古墳群　清水潤三
日本美術史の誤謬、改訂、及び問題点に就ての覚書　下店静市
唐代の葬制について―唐代墓葬考序節―　杉本憲司
伊勢湾沿岸に分布するサヌカイト（讃岐岩）について　澄田正一
日本書紀の系図について　薗田香融
古墳・寺・氏族　伊達宗泰
万字文様について　辻合喜代太郎
刀子考　辻本直男
池原綱主　角田文衛
大極殿の門　直木孝次郎
ブランデージ・コレクション銅器に関連して　樋口隆康
日本の主神　肥後和男
古今一陽集撰者考　平山敏治郎
元興寺縁起と日本書紀　二葉憲香
高句麗と渤海―その社会・文化の近親性―　三上次男
中形袈裟襷文銅鐸について　三木文雄
朝鮮における封建制度　三品彰英
横川仏教の一齣　宮崎円遵
葬法の変遷よりみた古墳の終末　森浩一
弥生時代紡錘車覚書　八幡一郎
孝徳紀白雉元年条の文体と用語法　横田健一
允恭紀の歌に見える「時時」の読みと意味とを中心にして　吉永登

古墳の始まりと終り

末永雅雄
講演要旨

考古学協会の大会であると同時に公開講演でもありますので主題に入ります前に「古墳」という私の研究対象の概略を申し上げておきたいと思います。

古墳と一口に申しましても、時代によって形式も内部も変化が見られます。堺市の仁徳陵のような立派なものから、南河内郡の聖徳太子陵などに至るまでたいへんな相違があります。日本における古墳の盛んな時代は応神・仁徳天皇陵の五世紀ごろであると考えられますが、私の関心事は、最盛期の前段階はどのような過程を辿ってきたかということであり、また古墳の終りの段階はどんなものが見られるかということでした。私のこれまでの研究は、そういう点に向けてきましたが、結論的な成果を申し上げるまでに至っておりませんので、今後の研究目標のために、どうすればよいかという私見を申し上げるだけにとどめたいと思います。

私が考えようとしていることは考古学会でも関心事である高塚古墳の発展、特に前方後円墳についてであります。この前方後円墳は前世紀から突然大きく浮かび上ってくるのですが、その起源を考察する第一は弥生式文化との関連が挙げられますが高塚式古墳と弥生式文化とでは相違があるように思われます。最近発掘された福岡県や大阪府下などの墳墓は、北九州の弥生式文化と古墳文化を結ぶものとして注目されています。福岡の原田大六氏は、木棺に盛り土をした「弥生式古墳」を発見された。田能遺跡（尼崎市）では多数の木棺の中に銅の腕輪を巻いた人骨がみつかり、また勝部遺跡（豊中市）では古墳の棺と同じ組み立ての木棺がみられ古墳時代との関連を暗示させるものがあります。田能、勝部のほか、近畿各地の瓜生堂遺跡（東大阪市）、安満（あま）遺跡（高槻市）などの木棺墓は九州のかめ棺文化より進んだもので、近畿地方の弥生人が農耕の発達で経済力を貯えたものとみられ、この木棺式墳墓に土を盛り上げたものが古墳であると考えれば、弥生時代の木棺文化は古墳文化を生み出す基盤と考えられないでもない。しかし、まだまだ高塚古墳に結びつける決定的なこととは申せません。

私は以前に「日本の古墳」（昭和36年朝日新聞社刊）で示したことがありますが、畿内各地には数多くの墳墓が見られ、この近畿の古墳には死体を処理するのに何か特別の方法があったのではないかと考えており、これには注意を要します。何かその辺で高塚古墳と弥生時代の間に位置する古墳が発見されるはずであると考えています。大規模な前方後円墳の出現は、大陸の文化の影響を受けて発展した日本の文化とともに急激に示される。私はかねてから、弥生式文化と古墳文化の中間を注意して研究を続けてきましたが伊丹の古い地図には田能に古墳のマークがあります。このマークと発掘現場にはどんな関係があるか。田能遺跡は盛り土があるために、私にとっては見のがすことができないものです。他との密接性は明らではありませんが地下に埋葬する遺跡、遺物を確認することがあったようです。これは、地下を発掘する際の参考に申し上げます。このようにした検討が各地で組織だってなされれば、古墳発生のナゾに迫ることができるのではないかと思います。

小規模の盛り土の古墳が近畿各地にみられるならば、高塚古墳の「カギ」を探れると、長い間見続けてきました。いえ、そういうことを積極的に考えて見ると、古墳と弥生式文化とは地形的な関連があって、大規模なつながりがあると思われます。弥生式遺跡と古墳とでは、地理的な距離関係が人間的な関連を見せるようになったものではないかと思われます。古墳の基底や古墳以前のものの中にも土器などは、弥生式文化からの変化と関連して考えられる資料となるのではないかと思います。

弥生式文化にみられる先行文化の確認から連結して考える私には橿原市の「かずのやよい式遺跡」と東方の丘陵地帯にみられる新沢千塚を直接発掘にタッチした経験を申し上げることにします。

新沢千塚の古墳に盛った土は弥生式土器を含む土で、棺のすぐ上でも土器がみつかっている。「かずのやよい人」は耕地をさけて、東の丘に墳墓の場所を求めたのだろうか。棺を埋めると自然に土が盛り上がる。米の生産を中心とする弥生式の社会が充実して、生活が豊かになると社会の秩序がまとまり大陸から祖先を厚く葬る思想が導入され、そこに古墳発生の素地が急速にできたのではないか。大量の土を動かす古墳の建設は、農業土木の発達とも無関係ではなさそうである。丘陵地帯にみられる群墳の始まりは、従来の方法に有利なようにあるいは考えられたのかもしれない。

日本の古墳の始まりは、突然出現したものではなく、大陸の影響と弥生式文化の発展があって、その上に他の諸条件が加わって前方後円墳が起こったと見るべきであろう。大化の発王令は大きな転換期を与えたものとして注目すべきです。大化の発王令後、古墳は5・6世紀ごろから急に下火になり、前方後円墳がとって変り、新様式となっています。後期古墳が大きく変った直接の原因かも知れません。それは、中国の文化の手法を取り入れようとした、社会的な影響を受けているように見られます。

丘陵地にみられる大型古墳の出現は、特に大和・河内地方だけにみられ他では見られないので短期間のものであると思われます。それはまた、古墳文化が終りに近づいていることの証しでもあり、急速に終りを告げることを意味しているようです。

この点は、考古学と古代史の関連をおろそかにすることはできません。

近畿地方では、7世紀後半には古墳時代は終りを迎えると考えられますが、全国的にはそうでもないようです。近畿でも、法隆寺の裏山にある横穴石室も、高塚古墳の影響とみると8世紀まで下げられないでもありません。関東では、7世紀まででであろうと思われますが、構造だけでは判定しかねません。関東出土は、大和・河内地方のものとは異なっております。

明治年代の発掘では、後期文化の終末期に続くものと考えられています。それは、主として遺物の発見によるものですが、外形にもそれは及んでおりません。これまでの私の研究は、遺物を中心としてきました。私見を申しますと、甲冑（かっちゅう）、まがたまなどの例は、早ければ6―7世紀ごろのもので、銅椀は8世紀に見られるものであると思います。こういうように、古墳と出土品に着目するのも一考です。

桜井の市役所の古墳発掘、大阪府の調査などによる河内の壷井八幡さまの境内の発掘に見られる出土がハニワのはじまりではないかと思われます。古墳文化にはハニワは付き物ですが、ハジキなどの弥生式土器に関連するものであると思います。関東地方でもハニワはみられ、各種のハニワの研究が進んでおりハニワからモデルの人物の服装装飾品を観察することは、後期古墳文化の実態に迫ることのできる研究としてかかせません。

終末段階では、土中に副装品を埋葬することは墳墓を荒らされるという考えから廃止され、ハニワの出現があるように見うけられます。その意味では、文献の歴史を知ることはたいへん参考になります。遺跡、遺物を扱うには、古代史と関連して考えることは特に大切です。文献と両刀使いになることは困難であるかもしれませんが、できうるかぎり、連繋を考えて大切にして行きたいものです。以上大ざっぱな着眼点だけを申し上げました。

次に準備した図を参考にして補足します。（以下略）

講演をする末永教授

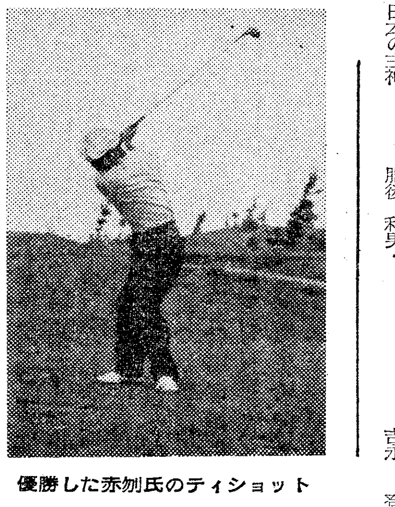
赤刎氏が優勝
―関大神戸ゴルフ会―

関大神戸ゴルフ会では、九月二十三日（土）第五回コンペを兵庫カンツリークラブにおいて開催した。快晴に恵まれ、小西明、松田正信氏らの新会員を加え、多数参加し盛大であった。

当会の誇る若手名手、赤刎正夫氏（昭和26学2法）が堂々たるスコアで優勝し向井裕亮会長より記念品を贈呈せられた。

他の入賞者、二等＝佐野雄一郎、三等＝楯川高明、四等＝藤田明、七等榎本昭、各氏で、それぞれ賞品が贈られた。

次回コンペは十一月二十六日、神有カンツリークラブと決定した。


優勝した赤刎氏のティショット

袋物（贈答用品）の廣島屋
カタログ進呈
財布・鞄 ETC.
（50ケ以上承ります）
株式會社 廣島屋本店
大阪市東区博労町1丁目26
TEL大阪（261）2431（代）
専務取締役　蔵田廣造
（昭和25年旧制経済卒）

京都の中心 三条へ
京阪特急
のりば 淀屋橋・北浜・天満橋
京橋・七条・四条・三条
京阪電車

トーヨーのパラコン
変圧器・配電盤
株式会社 東洋電機工作所
本社 愛知県春日井市味美知多町
名古屋営業所 字知多東548の1
TEL（春日井）（代）(81)4191～7番
大阪営業所 大阪市北区太融寺町三三
大阪合同ビル八〇二号
TEL(312)0581番（直通）
8751～5番（ビル）
東京出張所 東京都港区新橋1丁目17番1号
TEL (431) 2466番

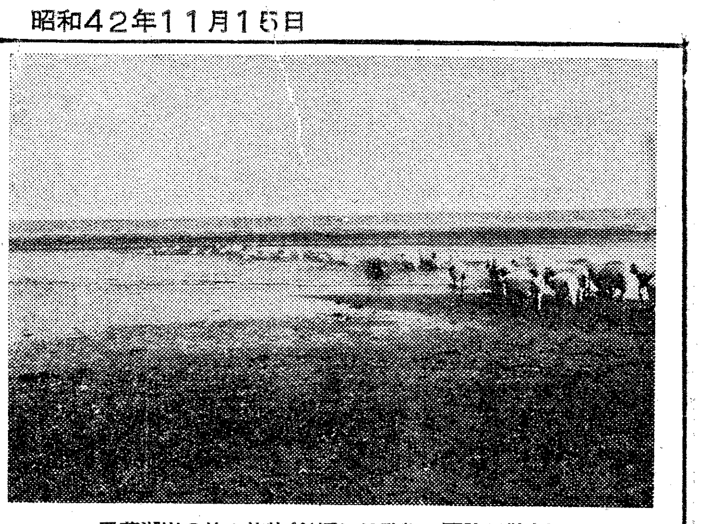
MIYAMAE
宮前産業株式会社
取締役社長　宮前邦雄
（昭和16年卒）
大阪市浪速区大国町一ノ一二三番地ノ八
電話（六三二）三六七五～七
農場　京都府宇治市木幡南山
電話宇治（〇七七四）②八二二三番

商業手形割引専門
少しでも、安く、早くと願う所に繁栄があるのです
大阪営業所 大阪市東区博労町2丁目62番地
TEL (261) 7597～8・0693～8・9395～8・8296～7・0995～6
株式会社　天偉
神戸本店 神戸市生田区栄町通5丁目34　電話㉞0337・5600・8726
京都店 京都市中京区三条通烏丸東入梅忠町加藤ビル2階　電話㉒6602 ㉑1996
東京店 東京都中央区銀座西1丁目1　電話(567) 5431～5

関西初登場！
現在東京で大流行
国際級室内ローラースケートリンク
桜宮ローラースケートリンク
アイススケート
年中無休
卓球場
市電、市バス東野田停留所前
京阪－片町駅北300m
TEL (351) 9421～2
営業時間 平日10時～21時
日祝 9時～21時

探検部 夏休みの報告書

…③…　風蓮湖と植物群



風蓮湖岸の羊の放牧（付近には動物の死骸が散在）

ヤウシベツ川航行…ゴール直前

濕原にひざまで埋まりながら必死に前進する隊員

排泄物のどろ沼

湿地帯を覆う原生植物

風蓮湖調査隊八名は、八月一日より十四日までの二週間を費やして活動した。我々がこの活動を計画したのは、近年各大学において探検部が増大し、活発化しているが、今までほとんど湿地帯に入り込んだ隊はなかったことからそれに関する資料が皆無に近かったこと、今後幾度となく行なわれようとされている海外遠征計画のために不可欠かつ大きな比重を占める地理的探検の一段階として我々はこの活動を企図したのである。

今回は風蓮湖岸一帯の植物分布図を作成することと、その採集分類を主な目的とし、湖底状況を観察するために湖とオホーツク海に潜水した。

風蓮湖は塩水湖であり、北海道の東の果て根室の少し北に位置し、この付近一帯は道立公園に指定されており、冬にはシベリアから何千羽という白鳥が飛来する。また丹頂鶴も何羽か生息し、我々も活動中一羽発見することができた。

風蓮湖は南北大きく二つに区別されるが、特に北部の周囲は、広大な湿地帯である。我々もその地域に重点を置いたことはもちろんである。

潜水による調査については、風蓮湖は、すでに湖としては老年期に入っており、オホーツク海とのつながりにより、年々浅くなっており、湖底には水草が繁茂し、海水の濁りとで余り満足いく潜水調査はできなかった。オホーツク海においても海水の濁りがひどく周囲一尺が見える範囲であったという有様であった。そして海水温度は、底では十五度以下で三十分も潜水していれば全身に感覚がなくなり、一種のマヒ状態になるのである。我々は、度々船上で暖をとり、そして一日何回となく潜水を続行していったのである。

植物分布図を、より広範囲に作成するために風蓮湖に注ぐ二河川（ヤウシベツ川・風蓮川）河岸の湿地帯を調査しながら、ゴムボートで、体中アブに刺されながら悪戦苦闘の末、完全航行に成功した。また毎日、全員が湿地帯特有のどろ沼でひざまで埋まりながら、一歩一歩進み予定の地域を調査できたことは、日ごろよりの体力、精神力、鍛練の賜であったと信ずる。

同じ湿地帯でも、この風蓮湖岸の湿地帯は、特に牛馬、それに羊の放牧が著しるしいために、その排泄物がひどく、我々が「少し固そうだ。」と思って足を踏み入れる泥は実は、彼等の排泄物の塊りの蓄積されたものであったりして、我々を困らしたものの一つであった。そして到る所に存在する沼や風蓮湖の岸近くは、水自体が彼らの排泄物であった。

しかし我々探検マンは、そんなことで探検活動に支障をきたしてはならない。毎日、ずぶぬれになって前進していったのである。

ハマナスと湿地植物の対照

八月というと植物について言うと北海道では、最盛期六月がすぎてはいたけれども、その色彩豊かな原生植物が湿地帯一帯をおおっていた。特に砂土に繁殖するハマナスと湿地帯のような泥土に生息する湿地植物の分布の見事さは目を見張るものがあった。海岸道路（デコボコ道）付近に咲き乱れるハマナスの華やかさと奥深い所で静かに咲いている湿地植物の様相は対照的かつ見事なコントラストをみせていた。

風蓮湖一帯の植物分布図を作成する方法として、毎日地図上に区画した五〇〇平方米の地域を四人ずつ二パーティーによって、採集と植物の割合いを記録し、そして写真によって、その資料とした。

同時に、風蓮湖はオホーツク海とつながる塩水湖であるので海への距離の遠近によって、その塩分濃度の差が異なる。我々は、この調査を科学実験をもってあたり、時には、実際に塩水をなめてみたりもしたのである。

我々は一応満足できる成果をあげたと思うけれども、今後も、あのような湿地帯を探検しようとするならば、装備面・日程面・メンバー構成の面などを充実し、そして探検活動にとって義務とされている、充分すぎるほどの準備段階を踏んでいかねばならないであろう。湿地帯という静かな処に底知れない危険が潜んでいることも忘れてはならない。

北海道において一番の「北海道らしさ」を感じさせる根釧原野はこれらの湿地帯が「——らしさ」を強調し、要因の一つとなっているのである。しかし、その地域の開発を遅れさせているのも湿地帯が存在するためでもある。しかし、余りにも「湿地帯」ということに無関心であり理解されていない現況である今日、我々は少しでも湿地帯に関する資料を作り、その理解に努めているのである。

（探検部調査班リーダー　萩谷宗秀＝法三）

野球部、惜しくも三位

秋の六大学リーグ終る

関西六大学秋のリーグ戦は、三十日の、関大—関学三回戦を最後に八週間の幕を閉じた。

関大は、同大をすでに第七節第一日目から振きり、快調の進撃を続け、東の早慶戦なら、西の関々戦といわれる対関学の試合も、今回は二勝一敗と勝越した。二十九日につづく三十日の試合でも、関学の反撃に対し、大野順—牧の継投でかわし、三つ目の勝点をあげた。

一位近大、二位竜大で関大は惜しくも三位に止まった。

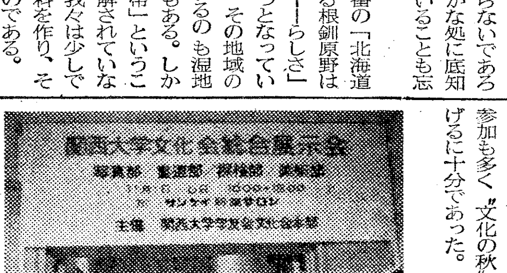
	近	竜	関	同	学	商	試	勝	敗	分	点	率
近大	⚾	2	0	2	2	2	12	8	4	0	4	.667
竜大	1	⚾	2	0	2	2	12	7	5	0	3	.583
関大	2	0	⚾	2	2	0	11	6	5	0	3	.545
同大	1	2	0	⚾	0	2	12	5	7	0	2	.417
関学	0	0	1	2	⚾	2	12	5	7	0	2	.417
大商	0	1	2	1	1	⚾	13	5	8	0	1	.385

文化の秋に総合展示会

—文化四クラブが合同で—

十一月一日から六日まで、大阪梅田の産経会館三階で開催されていた、文化会の美術部白鷺会と書道部・写真部・探検部の四部による総合展示会が成功のうちに幕を閉じた。

いよいよ、大学祭の季節を迎え、色めきたつ学園で一番のりを引受けたこの催しには、学外者の参加も多く〝文化の秋〟到来を告げるに十分であった。



関大蔵書 文庫をたずねて

玄武洞文庫の巻

近世 和刻本の蒐集

わが国屈指の 孝経コレクション

玄武洞文庫といえば、わが国屈指の孝経コレクションとして関係者の間では早くから知られていた。かりに現代に限ってみても、有名な孝経コレクションは五指を下らないが、中でも玄武洞文庫のそれは、近世和刻本約三百八十点を中心に、明治以降現在に至る各注釈書、研究書、また唐本、朝鮮本にまでおよぶ幅広い蒐集（約一千冊）で一等他をひきはなしている。

蒐集者田結荘金治氏は、大阪に学んだ儒者田結荘千里（大塩中斎門に学び、古文孝経心解はじめ多くの著書がある）の令孫にあたる。文庫の名は、氏の郷里但馬の奇勝にちなんだものであろうか。氏の蒐集熱心は、今も古書肆の語り草となっており、昭和十二年、先孝二十五回忌を記念して「家蔵孝経類情明目録稿一巻」を撰し、以て同好に頒たれたが、氏にこのことあるもまた偶然ではない。

近世目録学の宝庫

このコレクションは、昭和三十六年、幸にして本学図書館の蔵するところとなり今日に至っている。

この文庫の最も特徴とすべき点は、近世和刻本の蒐集にある。周知のように、孝経の和刻は文禄二年（一五九三）の後陽成天皇勅版孝経に始まるが、今に一本の伝存もなく、次いで刻された慶長四年（一五九九）勅版孝経が、僅か数本知られているほかは（文庫本は複製本）以後に出板された諸本凡そ四百種に近く、その九分九厘までが収められているのである。以てその豊富さを知ることができよう。官板、藩版、寺社版から私家版、町版の各版に亘り、古文・今文、孔伝・鄭注・御注・指解・刊誤・大義等の各本が、後印・翻刻・覆刻なども含めて整然と揃えられ、単に孝経学のみならず、近世目録学の宝庫をもなしている。

以下に、善本中一、二について述べてみよう。

「古文孝経孔伝一巻　元和寛永中活字本」いわゆる古活字本孝経は、二本あり、一は慶長中刊本で、他はこの元和寛永中刊本である。前者は、異植字版をも含み他に蔵する所も二、三あるが、これは、本学の他には、京大図書館に蔵する一本のみではなかろうか。本文は前者と同じ清原本の系統に属するが、先の勅版、後の清家正本（天明元年刊）とは、若干の相異が見られる。字体は前者と異り、柔かみを帯びて典雅である。

「唐賀監草書孝経墨帖一巻」

賀知章草書原本は、いま御物として天下に名高いが、これは明治十七年になる模刻本である。しかし近代刊刻史上逸することのできない名品である。明治十一年頃、三条実美が時の宮内七等属で筆名高かった堀習春をして模写に、名人といわれた四代木村嘉平をして彫刻に当らしめたもので、跋文は川田剛による。木村嘉平は命をつけて四年間心血をそそいで事に当り、刻成るや没した。弱冠二十九才であった。この書、幅十六糎、縦三十一糎、厚さ三糎余、本紙は厚い鳥の子を使用し、装幀は西陣織の緞子を用い、桜の縁を以て仕上げた見事なものである。

文庫中の孝経写本は、数こそ刊本に遥におよばないが、特筆すべきもの少なしとしない。

孝経学研究に光明

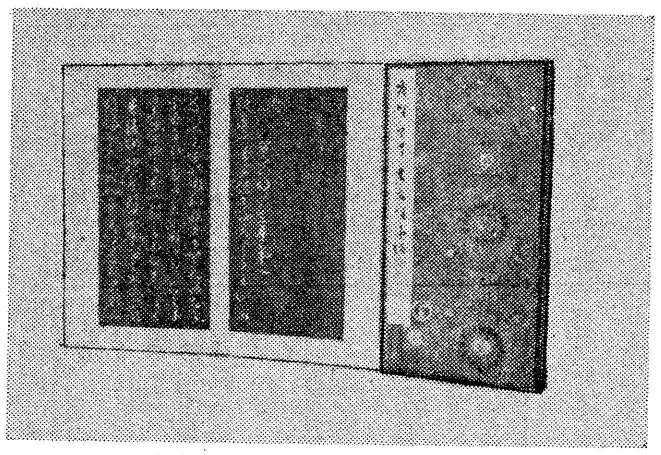
「孝経諺奉進存一巻　最上徳内著」最上徳内は、幕末の探検家、自然科学者としてむしろ有名で、漢学者としてはさほど宣伝されないが、彼には、論語彙訓、詩文押韻策等の著があり、この方面においても高く評価されている。孝経諺奉進は、もと乾坤二巻本で徳内晩年の著述にかかる。上巻は天保三年刊行され、現在既に稀覯に属するが、下巻は遂に刊行をみなかった。従って、上巻見返しの予告記述によって下巻の内容を想像しえるに止まったのである。上巻稿本は、静嘉堂文庫に存する「孝経白天章」と題する一本がそれで、門人の手写によるものである。下巻稿本は杳として行方知れず、久しくその発見が待望されていた。ここに掲げた一本は、実はその下巻なのである。もと東条琴台の蔵する所であったという。静嘉堂本と比較して、その同一人の手になることは明らかであり、真に貴重といわざるを得ない。

更にこの孝経諺奉進に関係すると思われる一本がある。「古文孝経孔氏伝一巻」がそれで、朱筆書入れによれば、最上徳内の校本であることが知られる。原鈔本の古体字から虫食のあとまでこまかに影写されており、並々ならぬ関心の程がうかがえる。徳内は、先の経孝奉進の著述に際して、数十種の諸本により校合を行っているが、その第一に山崎北峰珍蔵の古鈔本を掲げている。題箋に古文孝経古鈔本とある点からも、恐らくはこの校本が、彼のいう古鈔本ではあるまいかと疑われるのである。ともあれ、徳内関係のこの二書は、彼の孝経学研究に一光明をもたらすことになるであろう。

「御注孝経一巻」論語の和刻が早く鎌倉時代に始まるに比して、孝経のそれが近世初頭まで行われなかった理由については、習字の稽古がてらに転写したからであろうとする説があるが、その裏付とも考えられる名家の法帖、拓本また印譜類が孝経には多くものされている。その尤なるものが、御注孝経の拓本であろう。唐玄宗皇帝に開元始注本と天宝重注本のあることは有名であるが、これは天宝四年（七四五）玄宗自ら八分の字体に書して石に刻せしめた、いわゆる石台孝経によるものである。この碑は今も西安碑林にあり、高さ四米に近い石の各面による拓本孝経（四軸）は、壮大というほかない。

最後に、明治以降出版された仁治本、群書治要本をはじめとする複製古鈔本、先学の注釈書、研究諸論文等が、唐本については明、清時代の諸本が、朝鮮本は「孝経諺解」等の刊写本が、研究者に大きな便益を提供していることをつけ加えておきたい。

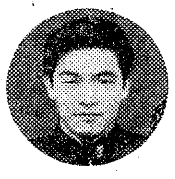
—森川彰



貴重な唐賀草書「孝経墨帖」—玄武洞文庫から

認識と自主性—

若人の生き方を求めて



千里祭実行委員長　原野勝美

現代の社会は巨大化・機械化された複雑多岐な社会構造であり、マス・コミの発達によって今日程小さな問題にまで気をくばられ、注目される社会は過去においては少なかったのではあるまいか。特にマンモス化された大学、そこで学ぶ学生——学生生活——そこでの学生運動、サークル活動等、大学に関する諸問題は大きく論議をかもしだしている。

また「人間」そのものについても真剣に考察されている時は今ほど発展していなかったと思う。

その現代社会にあって生活している我々学生にとって、人間の存在価値について討議、解決をせまられる時代であり、将来の発展への一エポックとして現在の我々に課せられた課題である。

我々は過去において経験したこともないような新しい事実・状況の下に置かれている。社会構造の変化にともなう新しい技術の伸展自由主義、資本主義社会の間に渦まくさまざまな観念、矛盾。屈折と欲求不満に対して現在的、理性的な考察を含んだ対応をせまられているのである。

すなわち、大きく変る社会と人間との関係をめぐって最近大きく取り上げられているのが「疎外」の問題である。

疎外は現代社会がいだくさまざまな問題、あるいは特徴において現われており、人間相互のかかわりのある変化から生れてくるものである。複雑多岐な社会において我々の経験するすべての病根が「疎外」であると言っても決して過言ではあるまい。「疎外」とは何かを真に深く理解し、認識することによって克服への糸口をつかみ人間性の回復への一段階として我々が試み挑戦しなければならない問題であろう。

第七回千里祭がこれらの諸疑問諸矛盾を克服し、個性の認識、創造、把握へ努力すべき一つの方向を示す問題提起として、統一スローガンに「自己 疎外への挑戦」を設定し、サブテーマとして「個性の認識と創造へ」を設定したのである。また基本方針にも

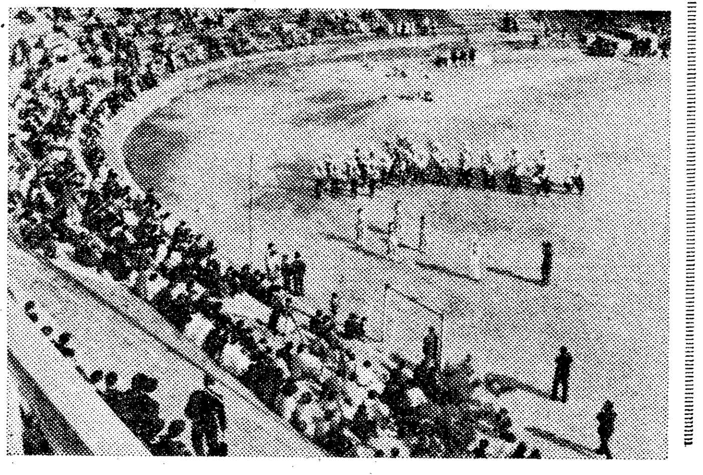
一、全学友の参加できるもの。

一、アカデミックな事はもちろん私学の特色を表わしたもの。

一、自己考察及び研究発表の場とする。

と決定された。拡大する潮流の中にあって変化の全貌を真に的確に把握しておのおのがヴィジョンや理念を創造し、あるべき姿への方向づけをし、我々が現在おかれている状況を的確に認識して社会の中における自らの生きてゆく方向を考えてこそ疎外への超克が可能となるのではないかと考える。

結局千里祭が意義あるものとして我々の内に存在するためには関西大学全学友の積極的な参加が必要であり、重要であります。全学友はもちろんの事、教職員の方々全ての校友の方々、更には広く関大を愛して下さる方々の参加を期待し、紙上をかりまして、お願いする次第であります。



第6回千里祭の開会式風景

第7回千里祭

前夜祭　とき：11月20日（月）5時30分
ところ：毎日ホール
本　祭　とき：11月23日（木）〜26日（日）
ところ：関西大学千里山学舎

二部学園祭開かる

二部学園祭が次のように開催された。

十一月十一日。前夜祭＝体育行進、軽音楽、落語、応援団吹奏楽、学窓座、邦楽、リーダークランツ、ESS、フォークダンス、茶会。◇十二日。千里第一グランド及び一高グランドで、バレーボールとソフトボール大会。◇十三日。本祭＝天六学舎で、民謡・吟詠・弁論・囲碁・将棋・映画・更にスポーツ関係では、拳法、柔道、卓球。前夜祭に引続き茶会も開かれ、女性の人気を集めた。▽十四日。フィナーレ＝天六学舎で開催。史学研討論会、剣道、空手、応援団乱舞。学園祭の名にふさわしいアカデミックな空気が天六の空に学問の府の存在を明示する中にその幕を閉じた。

掲示板

43年度入試 要項できる

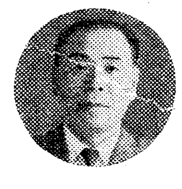
昭和四十三年度入学試験の要項が完成した。それによると試験期日、本学試験は、法＝二月三日、経＝二月四日、文＝二月五日、商＝二月六日、社＝二月七日、工＝二月八日、第二部は三月三日（日）地方試験は、二月四日（日）金沢・名古屋・高松・広島・福岡で行なわれる。

詳細は学生募集要項に明記。要項は〝大阪府吹田市千里山、関西大学学務課・TEL（三八八）一一二一〟にて発行。要項一〇〇円、〒五五円、現金または小為替。なお、直接本学では守衛室、経理課分室でも取扱っている。

訂正とおわび

前号「人それぞれ」で木梨与松氏の写真が不鮮明でしたので、ここにおわびいたします。

なお同記事中「弁護士会館が工費百万円」を「工費一千万円」に訂正します。



木梨与松氏

関大人事

新任　▽工学部教授　秋田鴻之助▽工学部専任講師　鳴仲美友▽工学部副手　奥村潤

補職　▽学生相談主事　辻岡美延　本庄良邦（以上社会学部教授）　芝田稔（文学部助教授）　古後楠徳（工学部助教授）

帰国　文学部専任講師新谷浩雄氏は、在外学術視察を終え、十月十九日午後三時横浜着、同十一日午後三時四十分新大阪着で帰阪した。

石本隆子さん（法・教授石本雅男氏御母堂）は十一月四日脳卒中のため逝去された。

小寺静江さん（校友会監事小寺小市郎氏令閨）は十一月十二日午前一時五十二分逝去された。

坂部クニエさん（本学大学院事務長坂部正武氏御祖母）は十月二十二日午前十時三十分老衰のため逝去された。

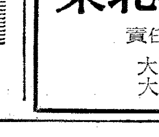
恒藤　恭氏（経済、政治研究所顧問）は十一月二日午前七時三十分、急性肺炎のため逝去された。

新田　巌氏（大13専）は十一月六日午前一時四十分自宅にて、胃癌のため逝去された。

本田秀尾さん（本学前評議員・校友会常議員本多喜慶氏御母堂）は、十一月八日午後七時三十分心臓マヒにて逝去された。守口市浜町一の五八の自宅、守口御坊にて告別式をとり行なった。

西川君、そろばん大阪一に

全大阪選手権で優勝



十月二十九日（日）、〝そろばん大阪一〟を決める第二十一回全大阪珠算選手権大会が大阪商工会議所で開かれ、商学部四回生の西川善彰君（三三）＝九段、北区茶屋町一四＝が大阪一になった。

この全大阪選手権には、およそ二六〇人が参加、中にはことしの五月全国大会で日本一になった雨池君（同大商二）もいたが、八百点満点で七百九十点を獲得して最高点を記録、昨年に続いて優勝をさらった。

ご結婚

○**伊藤昌一氏**（昭39大法一部卒）は十月一日、本学教授栗駒正和氏の媒酌で長谷川勝子さんと挙式された。新居は、大阪市生野区北生野町一の三。

○**上敏郎氏**（昭40学法）は五月十日、前代議士山本幸雄氏夫妻の媒酌で山本喜代美さんと新大阪ホテルで挙式された。

○**浪江衛世氏**（昭36学二法、大阪経済大学勤務＝本学講師、評議員浪江源治氏次男）は十月三十日、木下清氏（昭13大法）夫妻の媒酌で、内山絹子さんと宝塚ホテルで挙式された。新居は川西市花屋敷一丁目二九番地の十五。なお同氏は結婚記念として関大図書館の聖書コレクションのため聖書を寄贈された。

〝輸送・倉庫の御用命は堅実な当社まで御一報下さい〟
東北小型倉庫・輸送部
責任者　佐藤文一郎　昭37.経卒。
大阪市浪速区桜川1丁目1063番地
大　阪（561）7381

マイペースで飲もう
アサヒスタイニー

IWAO
自動車健康診断開設
校友の方は特別相談に応じます
株式会社　巌（イワオ）　TEL 本社 (762)6741
社長　千巌光郎

濱本工運株式会社
濱本工機株式会社
取締役社長　濱本正吉
（昭和14年大法卒）
本　社　兵庫県尼崎市西本町3丁目1番地　電話 大阪 411−0055
現業所　尼崎市東高洲町1番地　電話 大阪 441−0033
営業所　尼崎市扶桑町2丁目1番地　電話 大阪 401−4975

あなたの住いのプランに大和銀行がお手つだい
融資型　住宅信託
○お積立てのお申込みは、窓口で住宅信託の申込書を出していただき、金銭信託（追加式）にご加入願います。

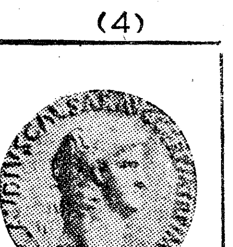
	5年コース	3年コース
積立期間	5カ年	3カ年
積立金額	毎月5千円〜3万円（千円きざみ）	毎月1万円〜5万円（千円きざみ）
実施期間	最初のお預入れから5年後	最初のお預入れから3年後
融資額	お積立月額の100倍まで（50〜300万円）	お積立月額の100倍まで（100〜500万円）

信託併営
大和銀行

製菓・製パン機械器具
和・洋・中華厨房喫茶器具
各種綜合設備設計施工
製造卸
SENDA
株式会社　千田
本社　大阪市南区河原町二丁目一四八四（千日前 南道具屋 筋）
電話大阪代表（632）五八五一〜四
工場・倉庫　大阪市浪速区西関谷町一丁目四
電話 大阪（631）六五四四

使徒パウロの法律論

木下　清



ネロ帝像（古代ローマ時代の貨幣）

西欧文明は、その基礎を成すキリスト教思想、すなわち聖書の知識なくしてその思潮の理解はできない。

ローマ法は古代ローマの社会において初期は慣習法として発達したものであるが、その発達と形成は有名なローマ法として後世に影響をおよぼした。すなわち慣習法を成文化したものが十二表法（450BC）であって、帝政時代にフレートル布告の形式をもって成文法が制定せられたと共に大法学者の有力学説または法と同一の効力を有するものとせられたために法は急速に発達してユスティニアーヌス帝時代（530）において、ローマ法の大集成であるユスティニアーヌス法典を制定してローマ法を発展せしめ、現在のドイツ、フランス法系のみならずひろく近代私法制定の根幹を成すにいたったのは、法律史に示されているとおりである。

使徒パウロの生涯・思想・人物などを研究する上に参照すべき史料としてのパウロ自身の書簡十数通と、パウロの同労の友ルカの執筆にかかる使徒行伝とを読むと、使徒パウロは、ユダヤの律法に精通していただけでなく、前記のローマ法についての知識もよくもっていたものと考えられる。

それが新約聖書の各所に現われてくるので、われわれにとってすこぶる興味が深い。例えば、ローマ人への手紙六章七節に、「それは、すでに死んだ者は、罪から解放されているからである」とあるが、この箇所は聖書注釈学者が一致して、これはパウロがここに世間の普通の事実を捉え来て、このローマ人への手紙前節（罪から解放されていること）の理由の説明にローマ法の法律論を援用してキリストによる、救いを論じているのだと講解している。

刑事訴訟手続において起訴された被告人が刑罰を免れる場合はいろいろある。実体的審理がなされて無罪の判決を受ける場合、また時効が完成したり、大赦があったりして免訴の判決を受けて以後訴追を受けるおそれが無い場合がそれである。

ところが起訴便宜主義のもとにあって公訴の取り消しがあったり、公訴提起に違法があったりして公訴棄却の判決を受ける場合があるが、これは未だ罪を免れるところまではいかない。

被告人が死亡した以上はその罪を問わない。彼がどういう犯罪をおかしたか、如何なる証拠方法によってそれを認定するか、どういう刑罰を科するかということは問題にしない。公訴棄却となって事件はおしまいになるというわけである。

パウロはつぎの八および九節で「もしわたくしたちが、キリストとともに死んだなら、また彼と共に生きることを信じる。キリストは死人の中からよみがえらされて、もはや死ぬことがなく、死はもはや彼を支配しないことを知っているからである」と述べて七節の法律論を、わたくしはキリストと共に死んだ（過去形）、古い自己はキリストと共に十字架につけられ、未来はキリストと共に活きる。イエス・キリストに在る生活すなわち、キリストとの霊的結合になった者は、キリストと共に死を経験した者である。

キリストと共に死んだのだから刑事訴訟手続の上では死亡に因る公訴棄却の決定を受けたもので、その人は、その罪について実体的審理を受けることなく、キリストの故に不問に付され、それからキリストと共によみがえり、新しい人として永遠の生命を受けるというわけである。

聖書を学ぶに法律の知識、訴訟法論がその理解を深め、聖書が命の書であるといわれる意味を知ることは大切なことに違いない。このことだけでも、本学図書館の聖書コレクションの価値を再認識する理由の一つを思わざるを得ない。

最後に、法律を専攻したわれわれは、ややもすれば「罪」を指して、罪とは刑法上の罪、いわゆる罪刑法定主義における罪（CRIME）または違法類型のみを考えがちであるが、聖書における罪（SIN）〈日本語では両方共罪と翻訳される〉は神に対する反逆・不服を意味することを識らなければならない。

欧米文化ないし社会が、永いキリスト教的基盤の上の歴史的現実であるのと対照的に、日本社会では聖書的な意味における罪の意識が理解され難いことは、日本文化が、仏教、儒教、西洋思想などの受容によって育って来たが、その受容の仕方が、いつの場合にも技術面における模倣にとどまり、精神面、思想面では、はなはだしくおくれているという不釣衡の故だといわれている点にあると思われる。

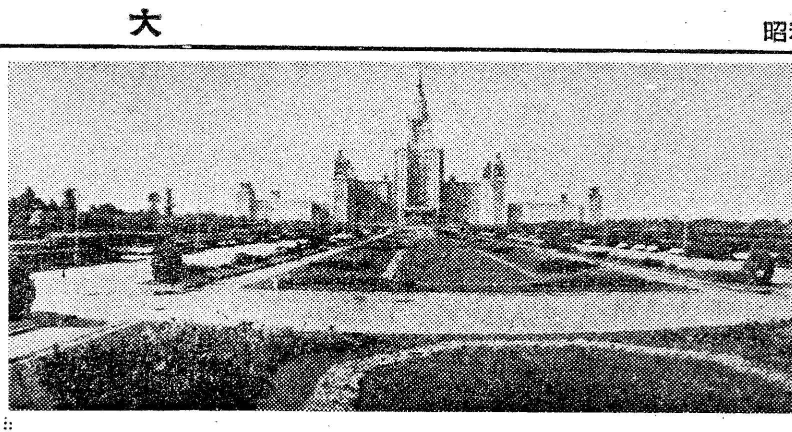
これは、日本人の世界観の特異性にあるとともに、キリスト教が日本で受容され難い土壌となっている理由の一つになっているのかも知れない。【昭13大法　関大キリスト教青年会理事、日本合成化学調査役】

図書館よりお願い

◇左記の図書を求めています。校友関係の方で蔵書を寄贈していただきますれば、関大図書館の聖書コレクションには、戦後本邦で刊行された聖書（合同訳・個人訳のすべてを含んで）の全部が揃うこととなります。

▽希和逐語訳ヨハネ伝（昭29年）
塚本・鶴田・長本共訳
▽詩篇（全）（昭27年）
▽アブリ神父訳

吹田市千里山、関大キリスト教青年会へお知らせいただくと幸いです。



モスクワにて

藤井昭三

10月19日、AM11:25羽田発。PM11:12（日本時間）モスクワ着。昨日はモスクワ大学を訪問しました。（写真はモスクワ大学・ロモノソフ州）モスクワ大学は13学部からなる総合大学でここには理科系学部がありました。32階建てで27階まで教室、それ以上は博物館やその他の資料室となっています

学生数は4万人、教授その他職員は4千人で、教授の月給が、他のいかなる職種よりも高いようです。夜間部もあります。

明日はチェコスロバキアに向います。1967.10.23AM9

【編集部注】ふじいしょうぞう氏は昭25学一政、昭27院修経、大阪府議会議員

随筆　短歌と俳句

晩秋の京

—龍安寺と金閣寺—

木山源一

晩秋の日射しがあたたかく感じられる日でした。

歴史と伝統をもつ京の街々には落着いたゆとりを見せ、広く舗装された道路の両側に植えられた柳の木はなごやかにつづいています。

道の彼方には京特有の低い丸みのある山々が連なっており、京を囲む東山、北山、西山、みな低くあたたかみのある京都人の優雅さもこれに起因するのではないかと思われます。

晩秋の陽のあたたかき京の街　しだれ柳に街路ひろくて

京の街かこむ山なみまるみもち柳つづける広き街路（みち）ゆく

大文字山の大の字あらはに見ゆる日の京の街ゆく車窓に見えて

龍安寺近く……あたりの山のしずけさ、晩秋の日射しのやわらかさ、近くの樹群（こむら）に小鳥の鳴く声……。

俗事をはなれた自然の中に立たずみました。

ここを訪れる人たちとあとさきになって小さい玉砂利の道を踏んで行くと、やわらかく、さくさくと音がします。池のほとりには木（こ）群があり池には白鳥が泳いでいます。

ひさかたに歩む砂利道さくさくと晩秋の日の龍安寺道

白鳥のゆるゆる泳ぐ池のほとり龍安寺庭に向ふ道すがらにて

龍安寺の禅庭は静寂の中に無言の調べを響かせるごとく、無我の境地を教えています。

（枯山水庭園）

石庭にただ立ちつくす冬日中

寺の廻廊をめぐるとき、小池に枯蓮がつっ立って、その上に紅葉が散りつもっています。

龍安寺禅庭

さきほどの池のほとりをしばらく歩きますと、木（こ）群の中にひときわ紅葉が美しく映えています。

結蓮の上に紅葉の散りしきて竜安寺庭の午后のしずけさ

古き池のほとり木（こ）群の中にして大樹の紅葉ひときわ赤し

（選田島一二郎氏選）

砂利道のかたえに竹樋をつけ、水を引いてしずかに音をたてております。鵙（もず）の高声に…

鵙（もず）鳴くや竹樋の水のしずけさに

秋の陽の明るく光れる（て）竹群（たかむら）の秀（ほ）につづく空を鵙は高鳴く

× ×

金閣寺（鹿苑寺）はここよりほど近くにあります。金閣寺苑の道もやはり玉砂利が敷かれ、踏み歩くときの音のしずけさに心が和みます。

両側の大樹の下には紅葉、黄葉が散り重なり苔の青さに、あたかも毛せんのじゅうたんを敷いたようで、青に紅、黄のあざやかは、この上なき風情でありました。

苔の上に散りしく紅葉濃く広く

ちらちらと紅葉散る中歩みゆく

紅葉散りひとつひとつがせせらぎに

池のまわりには樹々が茂り、樹（こ）の間から金閣寺が夕陽に映えて見えます。

樹（こ）の間より見えかくれせし金閣寺夕映えの中にひととき輝く

金閣寺を回って裏道にかかるころ、わずかに小雨が降り出しました。道のかたえに、小さな石仏が立って、黄葉、紅葉が散り重っており、静寂の感じをいよいよ深くしました。

黄の銀杏、楓紅葉と落葉して夕の雨降る地蔵石仏に

（きやまげんいち氏は昭27学二法・福島区役所市民相談係長）

関西大学を築いた人々 ⑭

題字は久井忠雄理事長

喜多村桂一郎

文学部教授　横田健一

地味、寡黙、重厚

徹底した財政第一主義

堅実無比の経営

喜多村は前二回にわたり薗田教授が紹介された砂川雄峻の甥である。（雄峻の兄、雄健の娘、田紀が、喜多村夫人である）砂川が関大五十年の柱石として、本学の経営を支えて来たのを、そばから助け、昭和八年四月砂川が死ぬと、その後を引きついで主席理事となり、堅実無比の財政第一主義の経営を行なった。

彼は慶応三年（一八六七）八月大和は吉野に近い高取藩士で当時江戸勤番であった喜多村助信の長男として、東京永田町の高取藩邸で生まれた。幼い時から学問を好み、亀井慈山について漢籍を学び、十歳で小学校に入り、東京尋常中学校、第一高等学校を経て、東京帝国大学法科大学に入学、英法を専攻、二十六年七月に卒業した。

幼時漢学を学んで以来、終生漢籍はよくよんだようで、漢詩をつくり、書もたくみであった。

卒業後直ちに司法官試補、二十九年五月判事に任官、三十年五月、京都地裁判事、三十一年十二月、大阪地裁部長、翌年六月依願退官、弁護士を開業した。事務所は砂川のところに同居してひらいた。京都時代には公務の余暇に京都法学校、第三高等学校法学部（このころ、旧制高校に一時法学部等の学部があった）などの講師をしたり、愛宕郡長にたのまれて、郡役所で戸籍法の講話を行なったりしていて、はやくから教育に強い関心をしめしている。大阪に赴任すると、大阪市立商業学校（現大阪市大経済学部前身）や関西法律学校（本学前身）へ出講したが、本学との関係は明治三十一年十二月からのことで、国際法を講義した。

弁護士開業後もしばらく講義をつづけた。

基金募集に奔走

明治三十五年、専門学校令が発布され、これに準拠する関西大学となる問題がおこると、そのためには、もはや河内町の興正寺のかりずまいではすまなくなって来た。すなわち江戸堀学舎建設とそのための募金問題が本学関係者の焦眉の問題となってきた。彼は基金募集委員の一人に選ばれ奔走した。その努力が実を結んで一万五千円余があつまり、明治三十七年江戸堀学舎が完成した。一万五千円というと、今の若い学生たちにはピンと来ないであろうが、物価の騰貴率から考えると三千万円以上にものぼるであろう。彼が関大の経営にタッチするのは、こうしたところからはじまる。

明治三十八年加太邦憲学長が大阪控訴院長退官とともに学長を辞任すると、河村善益大阪地裁所長が新学長となった。この時、大学の定款が変更され、従来十三名の社員が二十五名に増員されることとなり、喜多村もその一人に選ばれた。当時の社員とは関西大学の維持運営の中核体であり、理事が学長兼任でただ一名という当時にあっては社員会は今日の理事会の任務と評議員会の任務とを兼ねあわせたような役割をはたした機関である。

その後長らく喜多村の名は経営参加するにとどまり、本学史の檜舞台にあらわれて来ない。再び脚光をあびたのは大正十三年十二月柿崎欽吾理事がなくなった後任として、翌十四年五月理事に選任されてからである。

当時の本学は学長が松本烝治、総理事が山岡順太郎と大物の、しかし多忙で学務を充分かえりみることができない首脳がすわり、専務理事に敏腕鋭利なること剃刀のごとき宮島綱男が一切をとりしきっていた時代である。他に理事としては池尾芳蔵、佐竹三吾の二人がいたが、いずれも大阪財界重鎮の実業人で昇格後、募金のため任ぜられた理事で、会社経営に忙しく、本学の面倒を見る暇が充分あったとは思われない。

喜多村は一八九八年以来二十七年にわたり本学の講師、社員協議員等をつとめて来た経歴からいえば、理事陣中、もっとも本学をよく知りぬいてきた人であるということができる。かくて、一切を切り回して派手な経営を行っている宮島にとって、最も煙たい人であったことと察せられる。人柄からいっても、宮島は花やかな社交性、敏速な行動力、好き嫌いが強く、嫌いなものを強く排斥する鋭利な批判性を閃かせ、経済学が専門でフランス的な教養を豊かに持ち文学や演劇を好み、金づかいは荒い。これに対し喜多村は地味、寡黙、重厚で花やかな社交を好まず、漢学を好む武士的な謹直性、厳粛さを持ち味とし、経営は緊縮を専らとする法律家である。

昭和二年のいわゆる宮島事件は、学生がひきおこしたものであって、喜多村が、この排斥運動に関係したものとは考えられない。しかし、宮島の退陣の一因となった三万円にのぼる巨額の使途不明の支出の調査にあたったのが、昭和二年十月専務理事となった喜多村であった。この巨大な欠損は会計主任が自分が使い込んだと申し立て間もなく病死したが、これは自殺であるともいわれた。宮島はその監督不行届の責任をとらされたのである。

五年半で借金返済

そして、千里山における旧制大学建設に要した借金の残り四十万円余と、文部省に供託すべき金（旧制私大は一大学五十万円と一学部を加えるごとに十万円宛の供託をせねばならず、本学は六十万円を供託する義務があった）三十五万円を合わせると七十余万円の借金があり、これに加えて、昭和三、四年の天六学舎の建設費四十五万円を加えると、昭和四年ごろで実に百二十万円の借金があった。

これを整理すべき任務は昭和三年山岡総理事の死去後主宰理事となった砂川雄峻とその甥喜多村理事を中核とする理事会であった。文部省への供託金三十五万円中、二十四万円は昭和九年までに納付し、昭和九年十二月の予科校舎炎上により残額は多少の猶予許可を得て十一年に完納した。また借金七十余万円は昭和八年九月には全部皆済した。財政整理に着手して六年、正味五年半でなしとげたのは驚嘆に値する。

ところが更に驚くべきことは昭和八年から十四年までの喜多村主宰理事時代及びそれを次いだ、吉田音松主宰理事の二代が終戦までに実に百七十六万円という莫大な基本財産を蓄積したことである。

戦前の本学の歳出入は年によって不同であるが、昭和八年を例にとってみると歳入六十数万円、歳出約五十万円で、十数万円が財政整理にあてられている。百七十六万円といえば、昭和八年度の三年分の経営費にあたるといえよう。先日、同志社大学の幹部職員と話をしていたら、同大でも戦前は経営費二年分余にあたる基本財産をもっていたということであって、各大学とも基本財産は相当程度持っていた。赤字経営に追われる現在の各私大の現状からみれば夢のような話である。わずか二十年足らずで百二十万円の借金を返済し、百七十六万円を蓄積したのだから、全くおどろくべきものである。

なお戦前の百万円といえば、鉄筋の校舎数棟をもつ国立の単科大学が約百万円で設立されていることを思えば、いかに価値があったかがわかる。その蓄積が戦争直後の銀行預金凍結中にすんだインフレのため、凍結解除時にはいうに足らぬ金額になってしまったのだから、歎いてもあまりがある。今の時価にすれば十億に余る金がフイになったわけだ。

それだけに喜多村、吉田両主宰理事時代の経営は財政第一主義であった。昭和八年に喜多村の就任直後には、法文学部の文学科が学生が少ないために、年間二千円の欠損があるという理由で廃止を理事会で決議した。歳入と歳出の差額十万円以上を毎年浮かせている時代である。こうした経営方針に対し学生はハンストをもって抗議した。当時文学部の学生であった榎本金次郎教授は能勢妙見貫主となっている野間秀泉氏などとともにハンストそのものには加わらなかったが、夜間ひそかに窓から籠城学生に食料をはこびこむ役などをされたそうである。

千里山学舎建設

新規の学舎建設もあまり行われなかった。昭和九年に予科校舎が火事で焼けたため、昭和十年尚志館をつくり、昭和十一年に第二学舎が鉄筋コンクリートで建設されたが、これも焼失校舎の保険金三十余万円があてられたのであった。それほど貯蓄一方であった。しかし、なんといっても喜多村理事の最大の業績は千里山旧大学部の学舎を建設したことである。

これはもと明治、大正時代に北浜五丁目にあった住友合資会社本社の社屋であったが、住友が新社屋を建設することになったので、住友顧問弁護士であった喜多村が斡旋し、本学が無償で払下げを受けることが出来たのである。この建物は今の第一学舎の位置にあり、西南角に三階建丸屋根のドームのある塔屋をもった二階建木造の瀟洒な建築で、古い卒業生たちにとってはなつかしい校舎である。大正十五年七月に着工、昭和二年三月落成、六月五日に竣工式が行われた。この校舎は爾来二十七年間、関大を象徴する学舎であった。

また喜多村の他の大きな功績は昭和三年、松本烝治学長が辞任するや、後任学長として、東大の同級生仁保亀松を懇請、就任させたことであった。仁保は重厚謹厳な民法学の権威で、東京に居住したまま来阪する松本とちがい、関大がはじめてもった専任学長らしい学長であった。財政第一主義の喜多村もこの同級生の学長には譲って研究施設に金を使うことも認めたようで、昭和九年に「研究論集」が刊行されたごとき、その一例である。しかし学長にとってもまた特に研究意欲に燃える若い教授たちにとっても、財政主義に徹する喜多村の締める財布の紐の固さは、あきたりないものがあったようである。それほど彼はワンマンの経営者で、一般職員はむろん若い教授たちすらも彼の眼中になかったようである。

昭和九年にはじめて学部長制ができ、岩崎法文、水谷経商両学部長が初代学部長に任ぜられた。その翌年春玉木専務理事が就任して間もないころであろうが、両部長は当局にある要求を持ち、先ず玉木専務理事の内諾を得、その上で、三人そろって喜多村を訪れた。

部長が彼にむかって「この件は既に専務の内諾を得ましたが…」というと、喜多村は玉木に向い、机を猛烈な勢でドシンとたたき、「君は何の権限があって、そんな内諾を与えたか」と大喝一声したという。それほど強い自信をもって経営にあたっていた。

大学外においては住友のほか日本生命の顧問弁護士であり、昭和六年には大阪弁護士会長にも選ばれたが、ついに昭和十四年六月二十日、七十三歳で逝去した。本学は長年にわたる彼の本学への寄与と功績をたたえ、六月二十九日、四天王寺本坊で学葬をいとなみ、彼の霊を送った。また政府はその生前の功労に対し、従六位を追贈した。

彼は四十二年間本学につくし特に財政第一主義の経営で本学の財政安定に多大の貢献をした。しかし、教学を犠牲にしたというので教授や学生の間に不評の声も少なくなく、また苦心惨憺の貯蓄の成果が戦争のため一挙に価値少ないものになり終ったのは残念であった。

関大・刊行物案内

七月・八月の本学関係刊行物は次の通り。

◇「関西大学法学論集」第17巻第2号——関西大学法学会発行。
（論説）
カタルシス政治史観の諸相→ヘロドトス・アリス。トテレース史通覧→池田　栄。行政法上の人身の自由の侵害（二）——比較法的研究——広岡　隆。現代理論の再検討（四）・完→高橋三知雄。
（資料）
フランスぶどう酒法（一）木村健助。

◇「関西大学商学論集」第12巻第2号。関西大学商学会発行
（論説）
ハワードの教授過程論→富山忠三。ドイツ社会民主党の戦時財政政策（1）——公債問題——広田司朗。輸入貿易取引について→来住哲二。原価計算方式とL・Pの関係（2）——C・V・P分析への一考察——末政芳信。

◇「関西大学工学研究報告」第7号　関西大学工学部発行
（内容）英文。
機械工学科
▽Study on the 'cutting mechanism with an ultrasonically vibrated single grain—Experimental invenstigation of cutting force—
田中行雄・矢野章成・新家　昇
▽On the behavior of cutting edges of an ultrasonically vibrated abrasive stone　矢野章成
▽On coefficient of resistance of flow in control valve (additional report)
勝田勝田郎・石原　勲・山内恒美・橋新初夫
▽Some remarks on differential algebra　菊地徹平
電気工学科
▽General Expressions for transistor T parameters depending on junction temperature　金田弥吉
化学工学科
▽The decomposition of methanol on titanium system cotalysts　石井康敬・松浦郁也
金属工学科
▽Behavior of graphite in hyper-eutectic ironcarbon alloy by quenching method (Influence of some atmospheres of melting on graphite) —2nd Pept.
津田昌利・山本善章
▽On the corrosion rate of cast iron by sulfer cloxide
中村康彦・森田善一郎
▽Study on the seizure phenomena in friction of metal.
中村文俊・星加洋・清水卓郎

◇「関西大学工学研究報告」第8号　関西大学工学部発行
（内容）英文
機械工学科
▽Some considerations on the behvaious of a two-dimensional contourng
前田春興・清水寛治・阿波啓造

◇「関西大学法学論集」第17巻第一号　関西大学法学会発行
（論説）
一般体系理論について→山川雄巳　民事訴訟に於る「正当な当事者」に関する研究（一）—ドイツに於る学説の変遷
→福永有利　代理理論の再検討（三）→高橋三知雄
（資料）
ハインリッヒ・ヘルファールト「多数決原理の代りに中裁による決定を」——一九六六年十一月十八日付「上部ヘッセン新聞」から→高尾正男

移転

（10月21日受付分まで）

▽相沢佑勲（昭四〇学一法）京都府乙訓郡大山崎村字鏡田
▽浅井正篤（昭三七学二法）八尾市大字思智四九九の五
▽相沢正二（昭一〇学一法）京都府乙訓郡大山崎村字鏡田
▽岡本征一郎（昭三六学一経）西宮市浜甲子園三丁目二—二〇—三〇二　大一マンション
▽大西敬一郎（昭四〇学工電）茨木市中津町二—一　五十鈴マンション　二八号
▽奥村健三（昭三九学一法）神戸市垂水区星陵台一丁目三六（旧姓山本）
▽落合章宏（昭三七学一経）和歌山市中之島九四一
▽金沢那一（昭三八学一経）吹田市桃山台一丁目二番B一六—一〇八
▽川野宗孝（昭一〇法文・法）宝塚市仁川北三丁目七—四八
▽川畑博嗣（昭四〇学一法）大阪市住吉区柴谷町三—一府営住宅三一三号北村方
▽嘉納敏夫（昭三四学一経）八尾市南小阪合町三丁目六一
▽菊地章（昭三七学一商）池田市城南町二—一六六　新樹苑
▽草薙晃祥（昭四〇学一商）大阪市港区千代見町三—一七草薙ビル
▽小坂井楠男（昭二九学一経）兵庫県川西市寺畑二丁目四番一〇号
▽佐伯昌三（昭三七学一法）寝屋川市初町二〇—一一
▽坂井幸雄（昭二七学二法）堺市巳麓荘原寺町一六五番地の四一
▽佐伯弘一（昭三一学一経）吹田市寿町一—二—二六
▽菅原一郎（昭二九学一商）吹田市江坂町三丁目四三—一七
▽杉野修三（昭三六学一法）宝塚市高司一丁目三〇五
▽曽々木太三（昭四〇学二文英）大阪府松原市天美南三—七二二号
▽高木四郎（〈旧姓青山〉昭三九学二法）東大阪市大連三〇三—三三
▽高島輝雄（昭三三学二法・三三学一政）大阪市阿倍野区松虫通一—八、一九号
▽滝下豊秋（昭三四学一経）茨木市畑田町一四—三〇
▽武田純（昭四〇学二法）堺市南長尾町三—五二府営金岡住宅五棟一三六号
▽多田忠（昭四二学一経）愛媛県新居浜市新須賀甲八—五
▽高橋賜春（昭三九学一経）神戸市垂水区狩口台一—六明舞団地一三〇七号
▽立石英隆（昭三七学二法）奈良市三碓町二二〇一—五富雄団地九八号
▽中西勝太郎（昭三六学一法）堺市新金岡町一丁目七—二—二〇八号
▽西野祐治（昭三七学一商）門真市朝日町一八—一七
▽花木友良（昭三三学二経）大阪市東住吉区田辺東の町二の一〇三
▽畑中康雄（昭四一学一法）三田市灰又四二二番地
▽藤井利夫（昭二五専工）堺市新金岡町一丁七番六号館二一〇号
▽向井俊二（昭六学二経）鎌倉市大町六丁目一〇—一六
▽村田将隆（昭四〇学一経）長野県佐久市大字取出町仲道一〇七—一六　村田電機工作所（旧姓前中）
▽森川恭治（昭三四学一法）高槻市寿町一五—八
▽山田勝啓（昭三九学一経）大阪府高槻市南総持寺町七六七日本住宅公団総持寺団地三六号館三〇一号
▽山田清太郎（昭四大一法）箕面市桜井一丁目一八—一五
▽渡辺賢一（昭三九学一経）西宮市深津町一〇三番地古城ハウス
▽渡辺幸博（昭三一学二哲・昭三八院博哲）堺市新金岡町一丁目七番一九—三〇四

異動

（10月21日受付分まで）【　】は旧職

▽井上勝弘（昭四一学一工金）コサカ造機株式会社【小坂製作所】岡山市久米二六七—一コサカ造機（株）岡山寮内
▽岩原猛（昭三三学一経）（株）トヨタ・レンタカー大阪【大阪トヨペット（株）】守口市藤田町四丁目一六一
▽石田宏（昭三〇学二法）大阪府警関目警察学校教官【大阪府警総務課巡査部長】大阪市東住吉区矢田住道町六—一二府住一八一号
▽植本貞治（昭二五学一法）（株）萬年社【（株）大阪日東通信部製理課長】大阪市東淀川区三国本町二—一九〇
▽久保進（昭三五学二法）岩住アルミサッシ（株）【日東アルミニウム製造所】尼崎市尾浜西末四〇六—三
▽多田忠（昭四二学一経）大新薬品株式会社【光食品（株）】〈住所は「移転」記事に〉

ニッカバー
ポッカ
北新地店　北区永楽町18番地　(代)344・6091
北　店　北区曽根崎中1丁目2番地　(312)4787
心斎橋店　南区心斎橋筋2丁目32番地　(211)4787

精肉すき焼
清水町
北むら
大丸東側東
大阪市南区東清水町四六
電二七一・八七八二
二五一・三〇七九
創業明治14年

KKK　ABC
ダイヤモンドホーローバス製造元
各種大型プレス・製缶事業
赤井物産株式会社
染料及び中間物製造販売元
神戸化学工業株式会社
取締役社長　赤井常隆
本社　大阪市西区北堀江上通一丁目十番地
電話大阪（五三八）代表三六二一～五番
工場　◎静岡・西宮・神戸
◎大阪興業株式会社
◎新東生コンクリート工業株式会社

旅行のすべてを！
プレイガイド新設！
■天王寺観光センター
天王寺ステーションビル3F
TEL　771—3988
779—5213
■湊町団体センター
国鉄湊町駅構内
TEL　631—8719
関西ツーリスト

奥水間温泉
松泉閣
■貝塚市木積
TEL (072404) 23・38
■阪和線熊取駅又は
水間鉄道水間駅より
バス・タクシーあり
大阪から50分……〈天然タンサン温泉〉
タクシーの御用命は……関西交通へ
〈社長〉校友　池田要二郎

くらしを豊かにする
住友の貸付信託
しくみ
● 1口1万円から何口でも申込めます
● 元金保証…景気の波にも安心
● 高利回り・年7分3厘7毛（5年もの予想配当率）
年6分5厘（2年もの予想配当率）
住友信託銀行
本店・大阪市東区北浜5丁目（新住友ビル）
電話（大代表）(203)1321

西大和開発株式会社
専務取締役　小泉　博
大阪市東区今橋四丁目七
日本生命南館内
電話大阪（二〇二）七七〇九番